

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal autistic traits and antenatal pain by cross-sectional analysis of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

横断的分析による成人女性の自閉症傾向と妊娠中の体の痛み

ユニットセンター(UC)等名: 大阪ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

2023 年: DOI: 10.1038/s41598-023-32945-2

筆頭著者名: 山田 恵子

所属 UC 名: 大阪ユニットセンター

目的:

本研究では、成人女性の自閉症傾向と、妊娠中の体の痛みの保有率や痛みの強さに関連があるかどうかを調べることを目的とした。

方法:

全国 89,068 名の妊婦(16 歳以上)を対象に、自閉症傾向を短縮版自閉症スペクトラム指数(AQ-10; 0~6 点、7 点[カットオフ値]以上の 8 得点群)、妊娠第 2・3 期における体の痛みの強さを SF-8 の体の痛み項目により測定した。そして、多項ロジスティック回帰分析を使用して、AQ-10 の得点群ごとに、軽度および中等度以上の痛みの保有について調整オッズ比を算出した。

結果:

全体の 61.9%が軽度の痛み、22.3%が中等度以上の痛みを保有した。軽度と比較して、中等度以上の痛みの方が AQ-10 との関連が有意に強く、AQ-10 の得点ごとの、中等度以上の痛み保有の調整オッズ比(95%信頼区間)は、1 点 1.01 (0.91-1.13)、2 点 1.13 (1.02-1.25)、3 点 1.16 (1.04-1.29)、4 点 1.20 (1.07-1.34)、5 点 1.23 (1.09-1.40)、6 点 1.27 (1.10-1.47)、7 点以上 1.24 (1.05-1.46)であり、点数が高くなるほど、中等度以上の痛みの保有割合は高かった。

考察(研究の限界を含める):

先行研究では、自閉症傾向があると痛みの感じ方が鈍いという報告と、敏感になるという報告が混在している。自閉症傾向は明確な線が引かれる病態ではなく段階的であり、一般集団に広く分布している。本研究では短縮版自閉症スペクトラム指数(AQ-10)を使用し、成人女性の自閉症傾向の程度と妊娠中の痛み保有に正の相関があり、軽度と比較して中等度以上の痛みで関連がより強いことを明らかにした。ただし、研究の限界として、AQ-10 は自閉症傾向だけではなく、うつなどの心理的苦痛がある場合や注意欠陥・多動性障害(ADHD)とも関連することが指摘されており、自閉症傾向はうつや ADHD を高率に併存することより、結果の解釈には注意が必要である。

結論:

成人女性の自閉症傾向と妊娠中の痛み保有に正の相関があり、自閉症傾向は軽度より中等度以上の痛みと関連が強かった。体の強い痛みを訴える妊婦に対して、医療従事者は自閉症傾向の併存にも配慮する必要があることが示唆された。